

提言

教会と地域福祉

〈5〉

ホッとスペース中原代表

佐々木 炎



山田豊さん(仮名)は、42歳で要介護2、ひとり暮らしです。37歳で病気を患い、1年前からわたしたちの通所介護を週1度利用するようになりました。

「なんだよ。俺を障がい者だと思ってバカにしているんだろ」

豊さんは高齢者の多い通所介護の中で一番若いためか、なじめない状態です。また、満たされない暮らしから、些細なことで介護スタッフやほかの利用者さんに腹を立てます。わたしたち事業所はどう関わったらいいのか悩みました。

豊さんは東京生まれのバブル世代で、大学時代のアルバイト先であったジャズクラブにそのまま就職。華やかな仕事で、34歳で六本木の店を任せられ、人生を謳歌していました。ところが37歳の時、真つす歩くことができなくなり、体に異

変を覚えるようになりまし

た。検査の結果、病名は「若年性パーキンソン病」。

今の医学では治せない進行性の難病で、いつか寝たきりになって死んでいくことを知りました。ショックを抱えつつ、一番の理解者であるはずの店のオーナーに告白すると、解雇となりました。病氣と失業、さらに信頼していた人からの拒絶にあったのです。

その後の豊さんは、約500万円の借金返済のため、ねずみ講に手を出し、知人を必死で訪ね歩きました。思うように売れず、借金はずますますふくれあがり、強引な勧誘で家族や友人さえ失いました。それからアルコールに溺れる毎日。うつ病を患い、大量の睡眠薬で自殺未遂、そして破産……。坂道を転がるように人生のどん底にたどり着きました。

薬が効いていればある程度の日常生活ができるものの、薬が切れると身体が自由がまったくきかなくなり、また。ある時、家のトイレのドアの前で薬が切れて動けなくなり、オシッコが漏れると知りながら動けず、失禁。そのまま約2時間漏らしたまま動くことができなかったそうです。

追い打ちをかけるように、近所のコンビニの店長から「迷惑だからもう来ないでほしい」と告げられました。何度もレジの前でもたついて、商売の邪魔だと思われたのでした。

積もる絶望の数々に、辛苦の理解されない日々……。豊さんはとうとう、悔しさを押さえ切れず叫びました。

「俺だっって好きでこんな病氣になったんじゃない!!」

まだ普通の人の半分しか生きていないのに死んでいく。俺がどんな気持ちでいるか、わかってもらいたい……」

豊さんはポロポロと涙を流しました。わたしはその涙を見ながら、進行していく病とやがて来る死、不毛

薬が効いていればある程度の日常生活ができるものの、薬が切れると身体が自由がまったくきかなくなり、また。ある時、家のトイレのドアの前で薬が切れて動けなくなり、オシッコが漏れると知りながら動けず、失禁。そのまま約2時間漏らしたまま動くことができなかったそうです。

涙はどこに流れ、たどり着くのか

ホッとスペース中原＝川崎市中原区で介護事業を中心、誰もがいつまでも自分らしく地域で暮らすことができるための支援活動をしている特定非営利活動法人。1998年、中原キリスト教会の礼拝堂を平日解放。教会が地域の一人ひとりにとって「いのちのパン」となり、心身ともに癒され、健康になるようにと願い、ホッとスペース中原が始まった。現在は、訪問介護、通所介護、居宅介護支援、グループホーム、子育て支援などに取り組む。

に見える人生を背負わされ、翻弄され続けている豊さんに心が痛みました。逃れられない病と行き場のない苦悩にいら立つ豊さんが、初めて理解できました。けれど、わたしは豊さんの辛苦の解決策も、彼のそれでもなおあるであろう生きる意味も、答えも、まったく見出せませんでした。どこに慰めがあるのでしょうか。死によって解放されることをクリスチャンは語るだけなのでしょう。豊さんの渴かない涙はどこに流れ、たどり着くのでしょうか。「涙」は、「水」と「戻る」と書くように、きつと豊さんの内側、つまり枯渇した魂に戻り、そこを潤すはず。だから豊さんにも、またわたしたちにも、そして人類にもある苦難の涙、その涙は病にあっても、死にあ

っても消えない救いを芽吹かためにあるのです。この神にある一縷の望みを捨てないこと、祈る思いで待つ「祈望」を抱え、痛みに寄り添うことが、大切な支援なのです。わたしたちの教会や地域にはこのような涙があっても、ここにもあるはず。もし、このような涙の数々がわたしたちに見えていないとしたら、神を見ることも、宣教もどんな意味があるのか、自戒を込めて考えるのです。

ささき・ほのお 1965年生まれ。日本社会事業学校卒、98年より現職。東京基督教大学、読売理工福祉専門学校で非常勤講師を務めるほか、日本聖契キリスト教団中原キリスト教会牧師、愛隣会理事として従事。著書に『人は命だけでは生きられない』『落書きの教科書』など。